



AFJ日本農業経営大学校

イノベーター 養成アカデミー

Innovator Training Academy

2027年度パンフレット

Innovation for Agri Future

新しい価値を協創し、
食と農の未来を変革する

問い合わせ

AFJ日本農業経営大学校

(運営法人:一般社団法人アグリフューチャー・ジャパン)

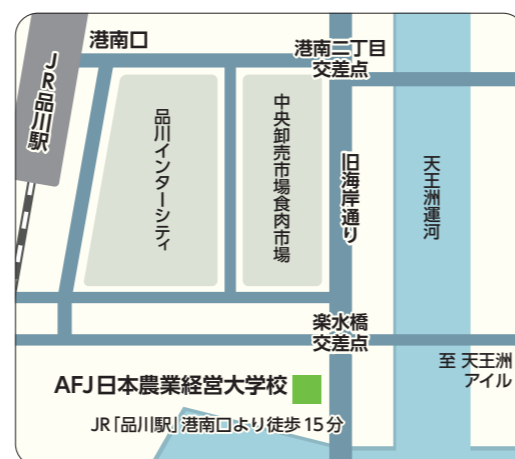
〒108-0075 東京都港区港南2-10-13 農林中央金庫品川研修センター5階

TEL:03-5781-3751 Mail:admission@afj.or.jp



AgriFuture Japan

挑む人に、全力。



食／農の社会課題を、 自らの事業に。

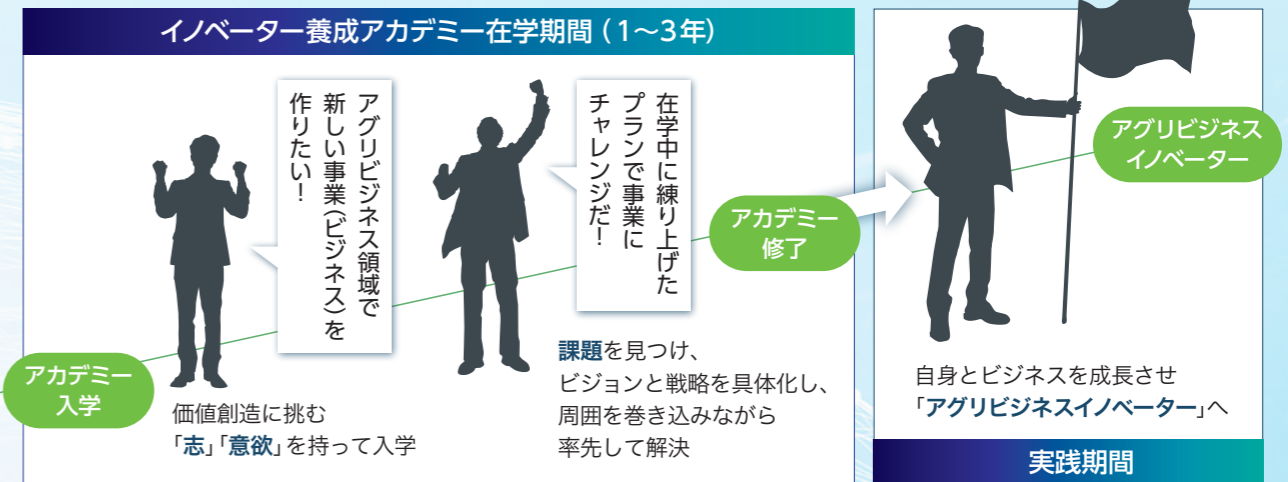
イノベーター養成アカデミーはフード／アグリビジネス領域で起業・新規事業開発を志す社会人を対象とした実践型教育プログラムです。現役の起業家やコンサルタントによるメンタリング、農業界・産業界・学界の専門家の個別伴走支援、200以上の会員企業・団体とのネットワークを通じて、事業構想の磨き込みから実証・展開を支援し、社会実装へとつなげます。

2027年度より、すべての講義がオンライン受講対応

こんな人に最適です

- ① アグリビジネス領域で**起業**や**新規事業**を立ち上げたいと考えている方
- ② アグリビジネスによって**社会課題を解決**したい方
- ③ 現在の**農業経営に変革**を起こしたいと考えている方
- ④ 自らのアイデアを形にするために**協創パートナー**を求めている方 など

アグリビジネスイノベーターになるまでの道のり (イメージ)



アカデミーの4つの特長

特長 1 新規事業開発の神髄

- ・ イノベーターに必要なスキルとマインドセットを提供
- ・ PoC(仮説検証)を通じた不確実性の低減や事業化のノウハウを提供

特長 2 食農領域特化の教育

- ・ 課題と機会に溢れる両フィールドを専門とする実践教育
- ・ 小さなアイデアをプログラムを通してアグリビジネスの中で昇華させる

特長 3 個別伴走支援

- ・ 個々の学生に合わせた学習設計とメンタリングを提供
- ・ 具体的な課題解決を目的とした専門家による支援体制

特長 4 市場評価が得られる機会

- ・ 各種発表会を通じて実績のある評価員から事業に関する評価を得られる
- ・ AFJネットワークを基盤に顧客ターゲットや専門家とのPoCの機会を提供



Case Studies

起業という枠を超えて
——「勝てる関わり方」を設計して、
格好いい農業ビジネスの現場へ接続する

座学だけでなく、最初から
“現場と事業”に触れられる

前職では農業とは無関係の、人材のヘッドハンティングをしていました。様々な人の人生に触れキャリアを繋ぐ仕事は楽しみつつも、もっと“物質的なこと”——普遍的な価値のあるものを作る世界に関わりたいと思ったんです。そこで直感的に行きついたのが農業でした。

ただ、農業の領域に飛び込むには「何か学ばないと」と漠然と探していて。座学も実践の学びも自分の興味に応じてできる環境を求めていた時に、アカデミーを知り、プログラム設計が自分に合いそうだと感じました。「いずれは自分のビジネスを起こしたい」という思いがあったからこそ、学びが活動に直結する環境に飛び込む決断ができたと思います。

自分の興味があることに専念できる。
その高い自由度の中で決断力を鍛えられる

アカデミーの魅力は、「興味を持つこと自体を肯定してもらえる」ことです。これって意外と日常では得づらいんですよね。しかも肯定したうえで、ビジネスとして「じゃあどう詰めていこうか」に進む。

入学前は、起業や社会課題解決の形はこうあるべき、みたいな硬い考えがありました。それに対して様々なアプローチを実践されてきた講師の方や、いろんな価値観やバックグラウンドを持っている仲間がいるのは大きくて。ここで会えるいろんな方の産業知識、問題意識、創造力、ビジネススキームを少しずつ吸収して自分の手札を増やしている気がします。



永山 天楽 NAGAYAMA AMARA

英国立バース大学経営学部を卒業後、司法書士行政書士事務所や人材紹介会社での勤務を経て本アカデミーに入学。現在は茨城県の農業法人で栽培や出荷に携わる傍ら、一般社団法人ナフィールドジャパン(世界最大の農業者ネットワークNuffield International Farming Scholarshipの日本事務局)の一員として活動。

※所属およびインタビュー内容は、取材当時のものです

現場でしか得られない一次情報に
新たな需要の芽を見出す

活動費助成制度を活用し、東ティモール(東南アジアの島国)に二ヶ月間滞在してPoCを行いました。現地では農家、物流、資材会社、NGO、政府系機関などを、人づてに紹介してもらって訪ねてインタビューしました。これによって、インターネット上の情報だけでは絶対に得られない一次情報が手に入りました。

もう一つ大きかったのは、「その場の人たちにとって何が役に立つのか」を対話で聞いたことです。取るに足らないように思える声や、五感で感じる気候・生活・農作物の情報に、必ず需要の芽がある。その芽をどう拾って、どう形にしていけるかを考える入口になりました。

Message

“想い”だけでは進まない。自分の日常の何を切り捨て、それを投資し代わりに何を得たいのか。そこが定まるほど、この環境の価値は強烈に効いてくると思います。「起業家」として走る以外にも、繋ぐ側、広める側、支える側、サプライ側——関わり方はいくつもある。自分が選んだ関わり方に向かって、現実で戦える手札を得られました。

Case Studies

“異業種”の強みを武器に
——「儲かる農業」の仕組みを、自分の手で作る

1年間で構築したのは土木×農業の新規事業
“少数精鋭で利益1億円”の実証へ

自社の強みを活かした基盤整備事業と農業生産事業を軸に、少人数で高収益を実現する農業パッケージの構築と、このモデルの水平展開を目指しています。

事業計画では5年間で圃場面積を100haまで拡大する目標を掲げています。作物は水稻を中心に、乾田直播による稲作を導入し、野菜の二毛作も組み込む計画です。100haの農地集約を進め、4名体制で売上約2億円強・利益1億円弱を目標とする、少数精鋭・高収益型の農業パッケージです。

計画はできる。でも、詰め切れない。
その壁を越えるための場を探していた

自身が経営する建設会社の事業として、農業を本格的に展開したいという思いをずっと持っていました。しかし、土地や機械設備、さまざまな作物・品種など、検討すべき要素が多岐にわたる中で、自分の持っている知識だけでは行き詰まる状況に何度も陥りました。その壁を打破するための場を探す中で、当アカデミーが経営的な視点と伴走体制を持ち、出資会社なども関わりながら発展・展開が望めるのではという期待があって、出願を決めました。

「食」「農」の新時代。実践する主体性と、
それを支える環境が近道になる

他の農業系の学びは、受けて、体験して、終わるような、どちらかという受け身のものが多い印象があります。それに対して、このアカデミーは本人が主体的に動くことがメイ



慶野 勝実 KEINO KATSUMI

宇都宮大学農学部農業環境工学科を卒業後、建設業界でキャリアをスタート。2021年にゼネラルオーダー株式会社を設立し、代表取締役として建設事業を推進する。2025年4月にイノベーター養成アカデミーに入学し、2026年3月に修了。現在は農業領域のビジネスアイデアを、同社の新規事業として取り組んでいる。

※所属およびインタビュー内容は、取材当時のものです

ンになっている。もちろんカリキュラム上決まった日程などはありますが、かなり柔軟に対応していただけたので、非常にやりやすかったです。

その中で、講師経由で大手の食品加工・流通会社と関係を持つなど、一年目から発展性のある繋がりを持てたことは非常に大きかったです。座学というより、実際に事業として新しいことにトライしていく中で、協力者やビジネスパートナーが繋がっていった感覚があります。

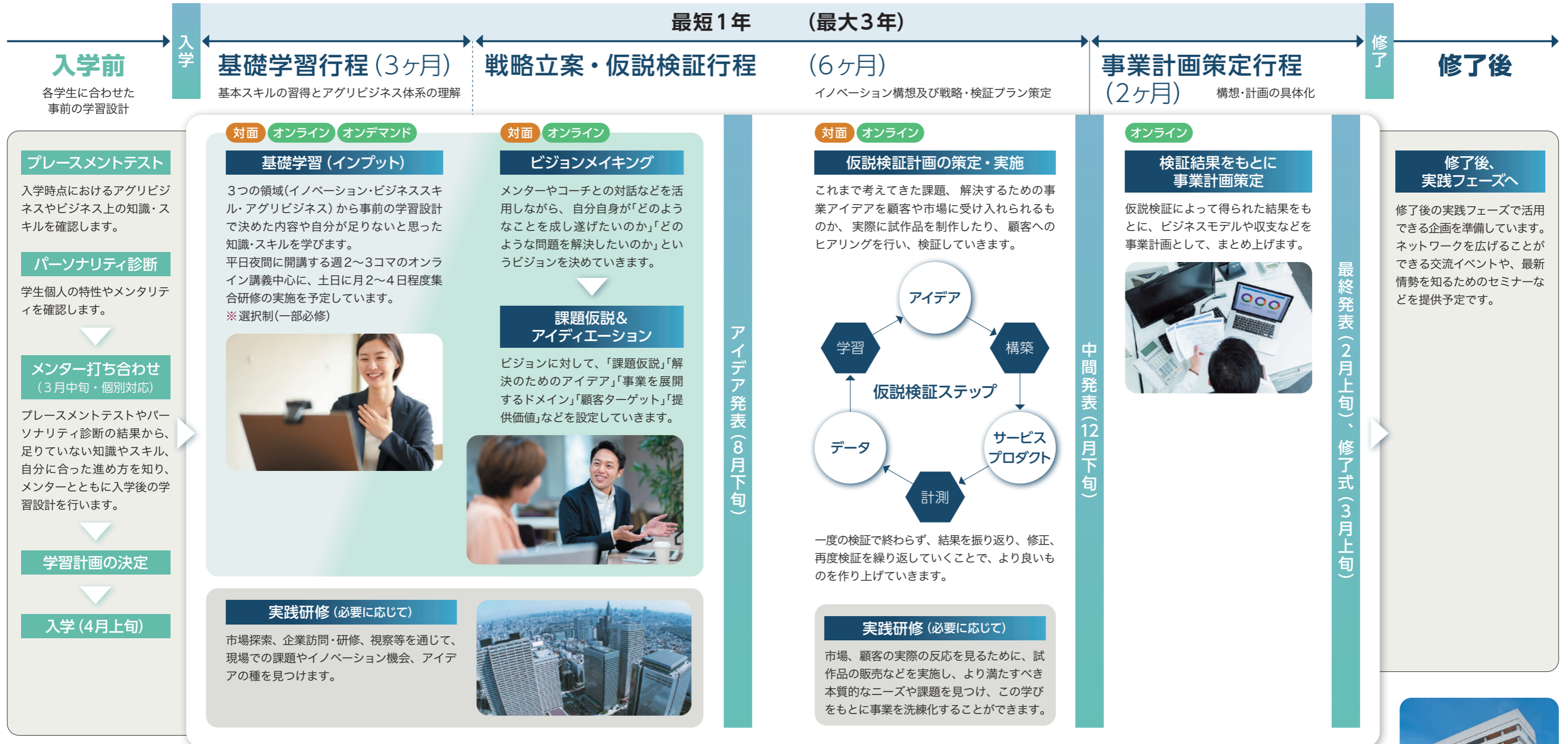
食や農の業界で新しい事業を作るには、自ら主体的に動ける人でなければ難しい。そういう意味で、このアカデミーは最も近道なのではないかと感じています。勉強しに来るといふより、実践しに来るといふ心構えで飛び込んでもらえれば、いいものができると思います。逆に言えば、自分から動けない人には合わないかもしれません。学生が主役で、必要なものを伴走しながら提供してくれる。そこが魅力だと思っています。

Message

アグリビジネスは参入障壁が高く、リスクも大きい。無謀な挑戦と思われることもあります。それでも自ら挑戦しようという人を、心から応援しています。こういった機会を最大限に活用し、農業界に新しい価値を見出してほしいと願っています。行動さえすれば前に進む。道は開ける。いつか一緒に何かやれたら、面白いと思います。

カリキュラムの全体像

リーンスタートアッププロセスの中核となる戦略立案・仮説検証行程を軸とした3つの行程と伴走を通じて、「アグリビジネスイノベーター」に必要な力を身に付けます。



伴走支援

伴走サポートの内容

- 目標、進捗管理・モチベーション管理
- 内容検討・ブラッシュアップサポート (壁打ち・相談)、外部コーチ連携
- 仮説検証実施サポート・市場分析サポート



入学式や集合研修は、AFJ日本農業経営大学校(品川本校)での実施を予定しています。



伴走支援体制

目標に向けた課題解決や効果的な学びを得てもらうための伴走の仕組みを整えています。目指したい姿や元々持っている能力や知識に対して、一律に同じものを提供するのではなく、必要な学びの提案や個別の課題に対するサポートを行います。

メンター

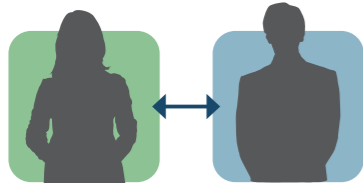
学生の成長に寄り添い、目標達成に向けた学習を支援

主な役割

特性や力量を踏まえた学習設計のアドバイス
目標・進捗管理
仮説検証実施・分析サポート
相談先(専門家)の検討



メンターの関わり方



学生 メンター

月に数回、オンラインもしくは対面にて面談

主な面談内容

基礎学習行程で学ぶべき知識・スキル
ビジョンメイキングやアイディエーション時の意見交換(壁打ち)
仮説検証計画・検証フィールドの検討
外部コーチ活用の検討
日々の進捗報告・悩み

活動を後押しするメンターたち



仲野 真人 (なかの まさと)

株式会社食農夢創
代表取締役

2005年立教大学経済学部を卒業、野村證券(株)に入社。2011年野村アグリプランニング&アドバイザー(株)に転出。2019年退社後、(株)食農夢創設立。2021年には明治大学専門職大学院グローバル・ビジネス研究科を首席で卒業。現在は農業法人や食農企業の経営支援およびビジネスマッチング、農業塾の講師、プラットフォームの運営まで幅広い業務を手掛ける。

Message

昨今、円安や資源高により農林漁業を取り巻く環境は特に厳しい状況が続いております。50年後、100年後に農林漁業を繋いでいくために、今こそイノベーションが求められています。これまで農林漁業分野の経営支援やビジネスマッチングに携わってきた知見・ネットワークを注ぎ込み、イノベーションの具現化のために全力で支援いたします。一緒に農林漁業の未来を切り開きましょう！



名取 隆 (なとり たかし)

立命館大学大学院 テクノロジー・マネジメント研究科
教授

1980年東京大学経済学部卒業後、日本開発銀行(現・日本政策投資銀行)入行。約30年間、新規事業への投資・融資業務等に従事。自治体へ出向し起業家育成政策を経験。2009年から立命館大学教授に転じ、現在に至る。大学では起業家養成目的の実践型授業を担当。名取ゼミから数社のスタートアップも輩出。英国ロンドン・ビジネス・スクールに留学経験。東北大学で技術経営分野の博士号(工学)を取得。

Message

起業家を志す方は孤独になりがちだと言われますが、その心配はいりません。私たちメンターが最初から最後まで支援します。私は前職の金融機関で多くのベンチャー企業を支援してきました。現在も大学で起業家教育に従事し、ゼミから起業家を輩出しています。皆さんに寄り添い、共に悩み、気づきやヒントを提供しながら目標達成まで歩みます。一緒に夢を実現させましょう！

外部コーチ

AFJのネットワークを活用し、学生の専門的な課題解決を支援

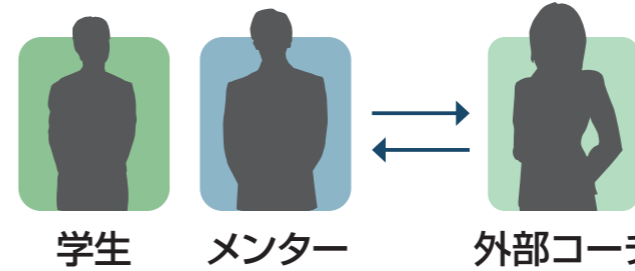
主な役割

各学生の専門的な課題解決を支援
専門性を背景に目標達成に必要な新たな気づきを促す



外部コーチの一覧はこちらから→

外部コーチへの相談の流れ



- 1 自分では解決できない専門的な課題に直面
- 2 外部コーチへの相談をメンターと検討し、決定
- 3 リストから相談先を選定し、相談事項(依頼内容)を決定
- 4 学生もしくはメンターから外部コーチに依頼
- 5 外部コーチとの面談実施
- 6 面談内容をもとにメンターと課題解決に向けた取組みを決定

※ 外部コーチへの相談は最大10回まで(1回あたり1時間程度)

相談内容(例)

課題や事業アイデアの検討/仮説検証フィールド・手法の検討/検証結果の分析・見直し

相談先のカテゴリー例

起業/戦略/マーケティング/研究開発/生産/加工/バリューチェーン/販売/資金調達/財務/法務/税務/人材マネジメント

外部コーチへのご紹介

株式会社農業総合研究所 代表取締役会長CEO 及川 智正

株式会社Cultivera 代表取締役CEO 豊永 翔平

株式会社鈴生 代表取締役 鈴木 貴博

前田農産食品株式会社 代表取締役 前田 茂雄

アグリビジネス・ソリューションズ株式会社 代表取締役 森 剛一

株式会社クリエイティブ・ジャングル 代表取締役社長 竹林 陽一

JA総合営農研究会 代表委員 黒澤 賢治

株式会社I-ABC 代表取締役 伊沢 豊

東洋大学 名誉教授 今村 肇

一般社団法人全国農業会議所 相談役 稲垣 照哉

株式会社農林中金総合研究所 理事研究員 阮 蔚

公益財団法人流通経済研究所 常務理事 主席研究員 折笠 俊輔

株式会社NX総合研究所 シニアコンサルタント 井上 文彦

株式会社NX総合研究所 シニアコンサルタント 磯村 誠二

株式会社エビングハウス・テクノロジー 代表取締役 宮里 隆司

株式会社NX総合研究所 主任研究員 シニアコンサルタント 吉藤 智一

ハウス食品グループ本社株式会社

研究開発本部 アグリ素材開発部 部長 福森 直仁

ハウス食品株式会社 開発研究所 開発三部 部長 藤井 肇

株式会社UnlocX 取締役 Insight Specialist 岡田 亜希子

株式会社UnlocX 取締役 Startup Specialist & Geek 住 朋享

株式会社TOWING 取締役COO 木村 俊介

株式会社和郷 ナレッジバンク事業統括取締役 高橋 義直

株式会社NTTデータ 部長 大川 英敏

株式会社NTTデータ 部長 山本 悠介

イノチオアグリ株式会社 執行役員 技術本部長 大門 弘明

東京農工大学 学長特任補佐 特任教授 濱田 隆徳

東京農業大学 国際食料情報学部 教授 内山 智裕

渥美坂井法律事務所・外国法共同事業 弁護士 井上 龍子

株式会社農林中金総合研究所 理事研究員 平澤 明彦

株式会社農林中金総合研究所 主席研究員 小針 美和

宮城大学 名誉教授 池戸 重信

豊橋技術科学大学・愛媛大学 教授 高山 弘太郎

玉川大学 経営学部国際経営学科 教授 神谷 涉

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 理事 森田 敏

公益財団法人流通経済研究所 特任研究員 高橋 佳生

株式会社売上UP研究所 代表取締役 渡邊 卓

※2026年3月31日現在

基礎学習行程(約3ヶ月)

市場環境や課題の捉え方、事業アイデアの検討などに必要な知識・情報を、3つの領域(イノベーション・ビジネススキル・アグリビジネス)から学びます。

- 科目は必修と選択があり、選択科目は、メンターとの事前の学習設計で決めたものや興味のあるものを選択して受講します。
- 働きながらでも学べるよう、平日夜間のオンライン講義(ライブ)や動画教材、土日の集合研修を実施します。



オンライン講義: 平日18:50~/週2~3コマ(1コマ90分)

集合研修: 土日10:30~17:00/月2日~4日

※基礎学習行程終了後の7~2月までは月2日程度での集合研修を予定。
集合研修は対面(品川本校)もしくはオンラインの選択が可能。

イノベーション

市場環境の捉え方とイノベータースキル・思考法の基礎を習得

必修

科目名	概要	講師
未来志向概論	基礎学習行程での学びを再確認し、未来志向でのアグリビジネスのアイデアに反映させます。	三村戦略パートナーズ株式会社 代表取締役 イノベーター養成アカデミー 主任教授 三村 昌裕
市場環境概論	アグリビジネス環境を多面的に捉え、イノベーションへの7つの機会について学び、イノベーションを見出す視点とフレームを習得します。	
アントレプレナーシップ概論	解決すべき課題テーマと向き合うために必要となる要素を学び、仮説を立て、ありたい姿とのギャップアナリシスから事業ビジョンを描く方法を学習します。	
仮説検証思考法	ロジカルシンキング等の基本フレームを習得することで、事業仮説を論理的に立てて検証するスキルを身につけます。	
顧客価値創造概論	構想するアグリビジネスにおける顧客創造と価値創造において重要なユーザーセンタードのアプローチ方法について、思考フレームを学びます。	

メイン講師



三村 昌裕 (みむら まさひろ)

三村戦略パートナーズ株式会社 代表取締役 / 情報経営イノベーション専門職大学 客員教授
株式会社ゆとりの空間 取締役

1969年、長崎生まれ。東京工業大学で都市計画を専攻。大学院修了後、2001年に三村戦略パートナーズを設立。大企業支援やスタートアップ上場経験を通して、社会課題解決型事業創造を体現する北大発ベンチャー、ポラスター・スペースを設立。農業課題解決事業として経産省J-startupに選定される。現在、人と組織を軸に企業のハイインパクト事業創造の再現性ある取組を支援する「仕組化」に取り組んでいる。

Message

ビジネスへの着想は、私たちが直面する課題と向き合うことから始まります。アグリビジネスは地球規模の課題テーマへの挑戦。未来の予測が困難な時代だからこそ、自ら主体的に行動することが求められます。未来は、自分たちで創造する。私たちは、皆さんの挑戦する強い意志と行動を全力でサポートします。一緒にアグリビジネスを通して、未来を切り拓きましょう。

ビジネススキル

イノベーションプラン策定に必要な基本スキルを習得

ビジネススキル

選択

科目名	概要	講師
マーケティング概論	マーケティングの考え方、各フレームワークの活用方法について学びます。	外部オンライン教材 Udemy business™
ロジカルシンキング概論	思考プロセスや考え方、各フレームワークの活用方法について学びます。	
クリティカルシンキング概論	目的や用途、各フレームワークの活用方法について学びます。	
ラテラルシンキング概論	物事を多角的に見るラテラルシンキングの重要性、それぞれの思考法の違いや関係性、フレームワークの活用方法を学びます。	
コミュニケーション概論	ディスカッションやプレゼンのスキル、リーダーシップの考え方について学びます。	
スタートアップファイナンス	スタートアップに必要なファイナンスの知識について学びます。	東京農工大学 学長特任補佐 特任教授 濱田 隆徳

ビジネスプラン策定基礎

選択

科目名	概要	講師
事業計画策定(戦略)	事業計画策定において活用する環境分析、事業アイデア等のフレームワークを学び、事業計画を策定する方法を学びます。	株式会社売上UP研究所 代表取締役 中小企業診断士 渡邊 卓
事業計画策定(計画[戦術])	事業計画策定において計画(戦術)の重要性を理解し、生産、開発、販売、財務などの計画を作成する方法について学びます。	
事業計画策定(中長期プラン)	事業計画策定における中長期プランの重要性を理解し、経営理念や目標設定、到達シナリオや事業性評価の手法について学びます。	
事業計画策定(リスク検討)	事業計画策定において、リスクマネジメントの重要性を理解し、事業者としてリスクを効果的に管理する方法を学びます。	

アグリビジネス

世の中のトレンドや食品産業の構造、農業政策・制度、農業が抱える課題を学ぶ

選択

科目名	概要	講師
農業経済	農業経済の全体像や食料需給の特徴、農業の収益性などを理解し、日本農業の課題解決に向けた方向性を学びます。	東京農工大学 国際食料情報学部 教授 内山 智裕
日本の食料・農業政策	現代日本の食料政策と農業政策について、基本的・包括的な知識と政策のあり方に関する確かな鑑識眼を養います。	株式会社農林中金総合研究所 主席研究員 小針 美和
世界の食料・農業政策	諸外国の政策の仕組みと最近の流れを理解し、国際比較を通して日本の政策を相対化する視点を得ます。	株式会社農林中金総合研究所 理事研究員 平澤 明彦
農地の法律・制度とむらのしきたり・おきて	農地法制の変遷と農地にまつわる最新の法制度を学ぶとともに、農村慣習について「むらのしきたり・おきて」をテーマに学びます。	一般社団法人全国農業会議所 相談役 稲垣 照哉
食品安全衛生に関するリスク管理	“利益につながる「攻め」のリスク管理”としてGAPやHACCPの活用をはじめ、食品表示制度について学びます。	宮城大学 名誉教授 (一財)消費科学センター代表理事 池戸 重信
農業経営のリスク管理	農業経営におけるさまざまなリスクを洗い出し、対応の考え方と事例、ICTの活用について学びます。	国立研究開発法人農業・食品産業技術 総合研究機構 理事 森田 敏
農業技術のトレンド	高効率農業生産における栽培管理、植物生体情報計測技術を概説し、高度環境制御型施設園芸のあり方を展望します。	豊橋技術科学大学大学院 工学研究科 機械工学系 教授 愛媛大学大学院 農学研究科 食料生産学専攻 教授 高山 弘太郎
食と環境のトレンド	食と環境に関するグローバル動向を紹介し、自分は何をすべきか、考えるヒントとなる講義を行います。	東京農工大学 学長特任補佐 特任教授 濱田 隆徳
消費者動向	消費者行動や心理を捉えるための考え方を身につけると共に、消費者を理解するための具体的な方法について学びます。	玉川大学 経営学部 国際経営学科 教授 神谷 渉
食品流通論	国内のフードバリューチェーンの現状と課題について学びます。	公益財団法人流通経済研究所 特任研究員 高橋 佳生

※上記科目は、現時点での予定であり、提供までに変更となる場合があります。

※Udemy Business受講料は学費に含まれており、在学期間中いつでもご利用いただけます。

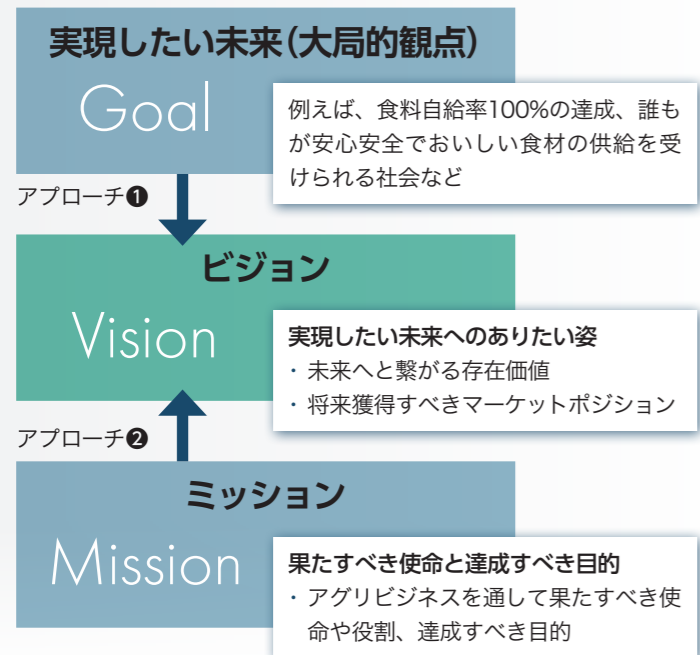
戦略立案・仮説検証行程(約6ヶ月)

本アカデミーにおける教育の軸となる行程です。イノベーションアイデア構築プロセスを身に付け、実践・検証に基づく修正を繰り返すことで、実社会で求められるサービスやプロダクトを構築します。

ビジョンメイキング

アグリビジネスにおける環境分析や自分の思いをふまえて、取り上げるテーマを決めます。課題テーマの解決を通して成し遂げたいことや未来のあるべき姿などビジョンを設定します。

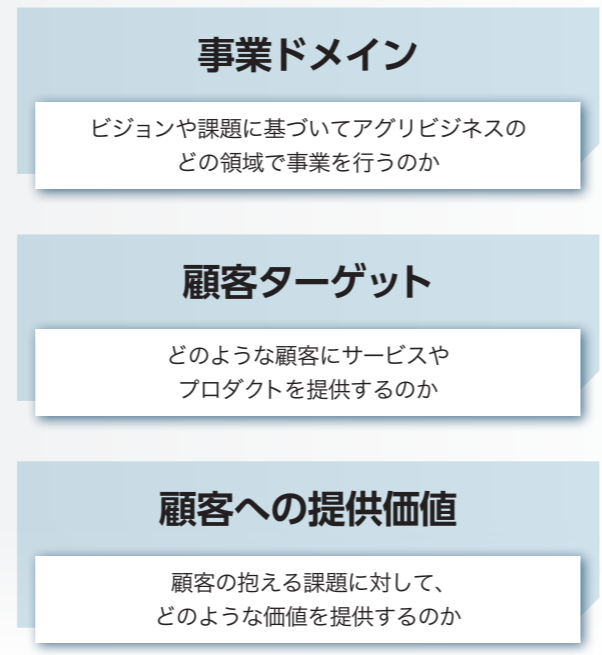
ビジョンを描く際の2つアプローチ



課題仮説& アイディエーション

自らのビジョンと解決すべき課題テーマに基づいて、アグリビジネスのどの領域で、誰に、どのような価値を提供するかアイデアをまとめます。

アイディエーションで検討すべき要件

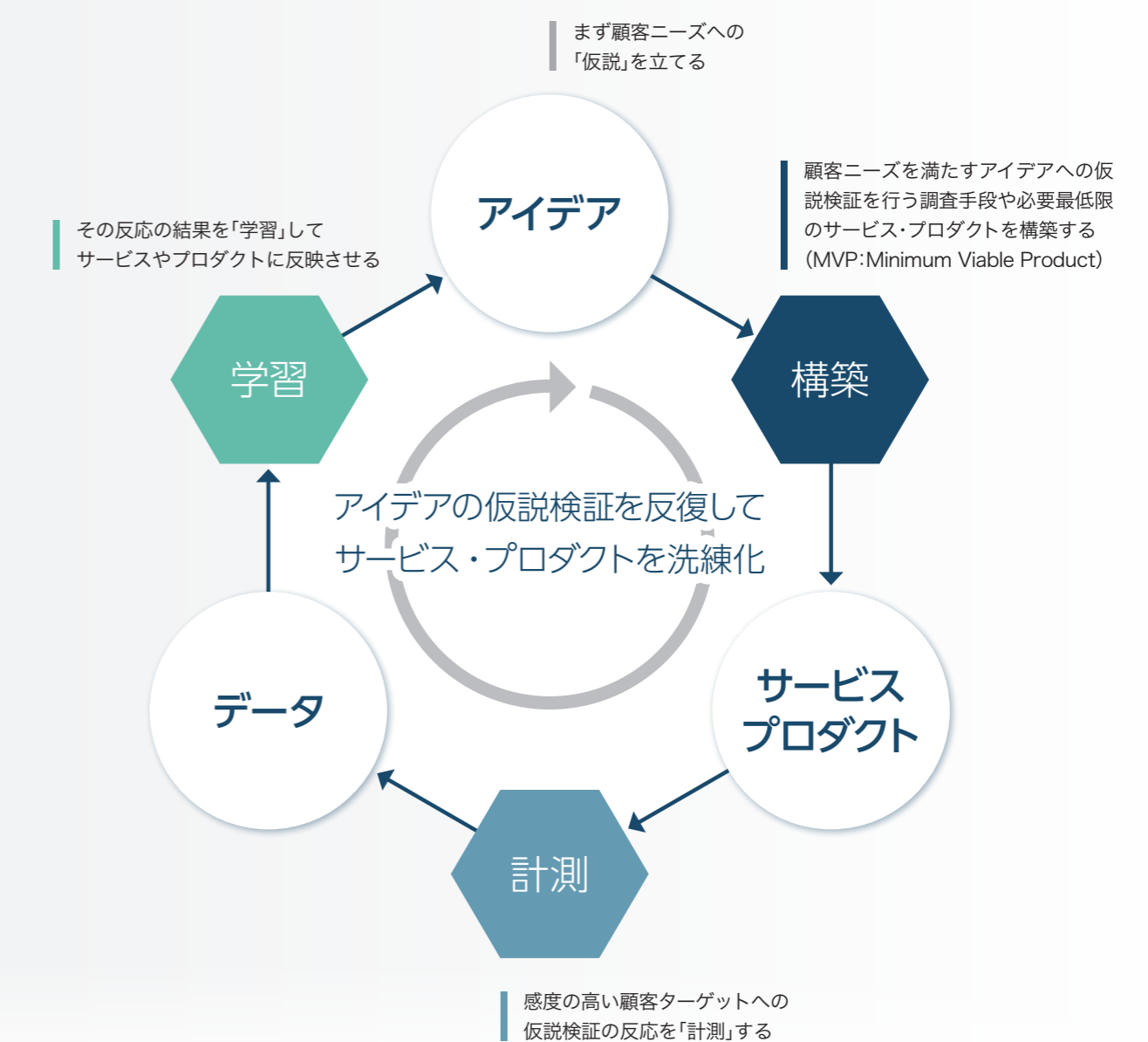


仮説検証計画の策定・実施



考えたアイデアやコンセプトを起点に、素早く形にして、顧客の反応を見ながら、構築(build)→計測(measure)→学習(learn)のサイクルを反復します。事業への仮説検証と学びを通して、サービス・プロダクトなどの事業の要件や仕様を洗練化し、事業成功度を高めます。

仮説検証ステップ(アイデアやサービス・プロダクト洗練化の検討サイクル)



実践研修

市場探索、企業訪問・研修、視察等を通じて、現場で課題やイノベーション機会、アイデアの種を見つけます。また、戦略立案・仮説検証行程で市場や顧客の実際の反応を見るために、実践的に検証を行うことができます。

研修例

- フードバリューチェーン(生産・加工・流通・販売等)の流れに沿った各プレイヤーの拠点視察
- 農業法人や企業における短期間のインターンシップ(現場での取組みを通じた課題の発見、仮説検証)



※ 必要に応じて行う活動のため、実施にともなう調整や費用は各自の負担となります。

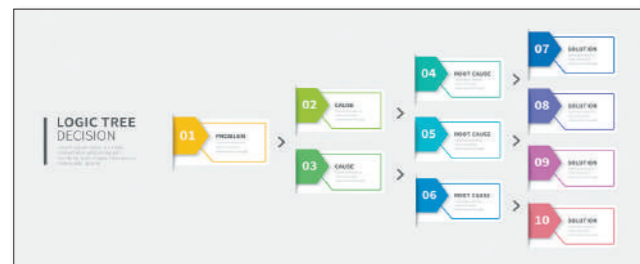
事業計画策定行程(約2ヶ月)

仮説検証の結果をもとに、アグリビジネスイノベーターとしてチャレンジすべき事業の要件を示すとともに、新たな顧客価値創造を通して持続可能な事業計画を策定します。

事業計画として対外的に説明可能な形にまとめることで、資金調達に活用できる計画を作り上げます。

戦略立案・仮説検証行程の成果

ビジネスプラン策定フレームを活用して内容を精査、整理して取りまとめる



財務計画等の数値シミュレーションを行う



検討に基づくビジネスモデルとして、エグゼクティブサマリーに取りまとめる

●最終アウトプット

エグゼクティブサマリー

事業計画の概要や重要な論点、数値情報などを整理しまとめたもの。主に事業の概要を簡潔に説明するために使用。



最終発表用資料



検討・決めるべき項目

- ・バリューチェーンモデル検討
- ・主要ステークホルダー設定
- ・リソース計画及び投資計画策定
- ・資金調達計画策定
- ・売上の予測モデル検討
- ・事業費用計画
- ・シナリオによる推移想定検討
- ・事業評価
- ・CF/PLの計画策定(5ヶ年分)
- ・リスク要因特定
- ・重要成功要因(KSF)の検討
- ・差別化及び展開戦略策定

各種発表会

全3回の発表の機会を活用して、仮説検証や修了後のビジネスの協力者募集、アイデアやビジネスモデルの評価を確認します。

※非公開での発表も選択可

アイデア発表

8月下旬

解決したい課題は何か、事業アイデアや今後どのような検証を行っていくのかを、AFJ会員や関係者に向けて発表します。

評価ポイント

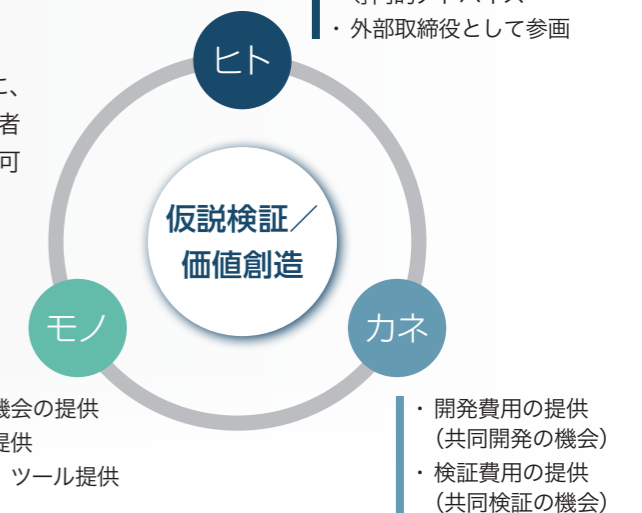
課題への着眼点やイノベーション要素、事業アイデアが適切に設定されているか。

■協力依頼例

- ・ハンズオン支援
- ・専門的アドバイス
- ・外部取締役として参画



希望者は発表時に、仮説検証等の協力者を募集することが可能です。



中間発表

12月中旬

実際に行った検証の結果をもとにアイデアをビジネスモデルとしてまとめ上げ、発表します。

評価ポイント

顧客ターゲットや提供価値、事業KPI等の事業要件が裏付けを持って設定されているか。

最終発表

2月下旬

これまで考えてきたビジネスモデル・事業計画を、AFJ会員や関係者等、多くの人たちに向けて発表します。

評価ポイント

アグリビジネスイノベーターとしてチャレンジすべき事業であるか、持続可能な計画となっているか。



入学から修了までの流れ(イメージ)



入試・各種制度・説明会

入学試験について

- 募集対象者**
 - ・アグリビジネスにおける価値創造と課題解決に挑む「志」と「意欲」を持つ者
 - ・学士課程修了程度の学力(理解力、思考力)とコミュニケーション力を持つ者
- 出願資格** (以下のいずれか)
 - ① 学士以上の学位を有する者(取得見込者を含む)
 - ② 短期大学士の学位または専門士・準学士の称号を取得し、フルタイム勤務または自営業で通算2年以上の社会人経験を有する者
 - ③ 高等学校を卒業し、フルタイム勤務または自営業で通算4年以上の社会人経験を有する者
- 最大収容人数** 30名
- 標準修業年限** 1年 ※自身の進捗に応じて最長3年まで在学可能です。
- 試験内容**

一次試験:書類審査(アグリビジネスにおける課題の解決に挑む志と学士課程修了相当の理解力や思考力などを審査)

二次試験:オンライン面接(志や意欲、コミュニケーション力などを審査)
- 受験料** 5,000円(税込)
- 学費(初年度)** 1,000,000円(税込) ※実践研修・各行程における活動費や旅費交通費、教科書代等は含まれておりません。
※1年を超えて在学する場合の延長料は月額50,000円(税込)です。
- 入試日程**

	出願および一次試験期間	一次試験可否通知	二次試験(オンライン面接)	二次試験可否通知
I期	9月8日(火)～10月13日(火)	10月29日(木)	11月14日(土)	11月20日(金)
II期	11月9日(月)～12月15日(火)	12月24日(木)	2027年1月16日(土)	2027年1月22日(金)

※1 入学願書および小論文をご提出いただくとともに、指定の口座に受験料をお振込みいただきます。
出願書類等の詳細については、ホームページにて公開している学生募集要項をご確認ください。

説明会

説明会の詳細・申込はこちらから▶



●オンライン説明会(Zoom)

イノベーター養成アカデミーのカリキュラム、スケジュール、入試等の説明を行います。

■ 所要時間:45分(説明30分、質疑応答15分) ※事前予約制(HPよりお申込みください)

●個別相談会(対面・オンライン)

個別でのご相談や、企業派遣での人材育成をご検討の方、また施設の見学希望など、対面でのご相談を承ります。

■ 所要時間:60分程度 ※事前予約制

■ 開催場所:オンライン(Zoom)もしくは品川本校

●オンデマンド学校説明動画(YouTube)

イノベーター養成アカデミーのカリキュラムや1年間の流れ、入試のご案内など、説明会でお話ししている内容を動画でご視聴いただけます。

各種制度

特待生制度

入学試験において優秀な成績を修めた者に対し、1年間の学費を免除します。

※途中退学等の場合は、免除を受けた学費の納入が必要となります。

免除額

特待生A:学費全額免除(最大3名)

特待生B:学費半額免除(最大5名)

つまり、特待生Aとして合格した場合、
学費全額無料に加えて最大40万円の活動費を支給

活動費助成制度

実践研修・各行程における活動費の一部を助成します。

※事前の活動計画書提出等の一定の条件を満たすことが必要です。

※修了時に支給します。

助成額

最大40万円

対象者

学生全員

活用例

- 海外における実地調査のための通訳費用・旅費交通費
- 農園・牧場での実地研修における交通費
- サンプルとなる物品購入
- 資格試験受験費用

※上記は利用実績の一部です。

よくある質問

Q. オンラインでの受講は可能ですか？

A. 集合研修含め、すべての講義がオンライン受講可能です。全国どこからでもご参加いただけますが、入学式・最終発表会・修了式は対面での実施を予定しております。

Q. 学校を見学することはできますか？

A. 見学可能です。学校の見学や来校して個別相談等を希望される場合は、入学試験事務局までお問合せください。

Q. 講義や集合研修は、祝日や年末年始も実施されますか？

A. 原則として、祝日や年末年始に講義等は実施しません。
ただし、土日が祝日にあたる場合は、実施する場合があります。

Q. どのような方が在籍していますか？

A. 年齢や職業は多様ですが、社会課題や事業創造に関心を持ち、自らビジネスを創り出す志をお持ちの方が在籍しています。
アイデアのフェーズも様々ですが、プログラムを通じて社会実装を目指します。

Q. 出願前に準備しておくことはありますか？

A. 一次試験問題は事前に公開していますので、あらかじめご確認ください。
また、ご自身が取り組みたいテーマや問題意識を整理しておくことを推奨します。

Q. 出願方法を教えてください。

A. 入学願書、最終学歴を証明する書類、小論文(一次試験問題)等の募集要項に定められた必要書類を添付の上、電子メールにて、出願および一次試験期間内に入学試験事務局(admission@afj.or.jp)宛にご提出ください。
※詳細については募集要項をご確認ください。

Q. 特待生制度の合格基準を教えてください。

A. 特待生制度は、受験者全員を対象とし、入学試験にて優秀な成績を修め、入学後も他の学生の模範となることが期待され、成業の見込みがあると当アカデミーが認める者の1年間の学費を全額、または半額免除する制度です。
なお、可否の判断に関わる内容についてはお答えできません。

Q. イノベーター養成アカデミーを修了することで学位や資格を取得することはできますか？

A. 本アカデミーは、私塾のため、学位や資格を取得することはできません。

Q. 最長3年まで在学可能とありますが、延長するための条件などはありますか？

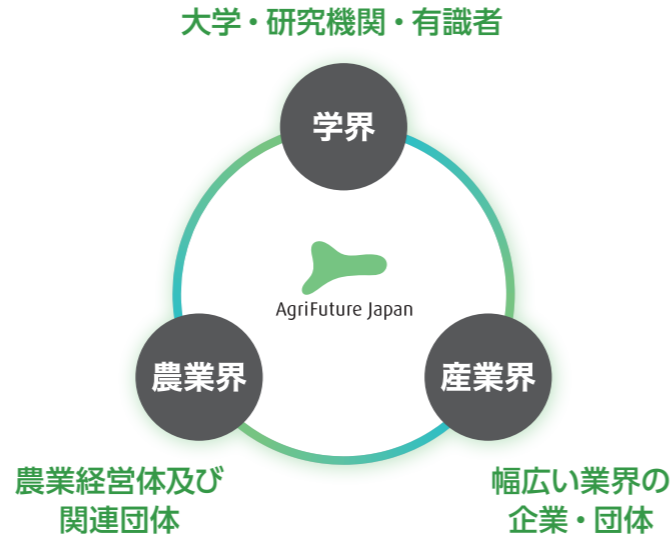
A. 決まった条件はありません。在学期間は、アイディエーションや仮説検証に時間を要することが想定されるときなどに、メンターと相談して延長期間を決めます(月単位で延長可能)。

アグリフューチャー・ジャパンについて

AgriFuture Japan 挑む人に、全力。

日本の農業の未来を担う経営者を育成することを目的に設立され、産業界・農業界・学界のオールジャパン体制のもと、業界の垣根を超えた幅広い企業・団体の会員*の皆様のご協力により運営している一般社団法人です。

* 農家・農業法人、農業関係団体、食農関連企業、総合商社、ゼネコン、私鉄、電機・IT企業、金融機関など
205会員（2025年12月31日現在）



経営理念

パーパス 未来を拓く、人材の育成を通じてわが国の農業を強く、魅力ある産業に発展させることで持続可能な社会の実現に貢献する

- ミッション**
- ① 農業を変革する人材を育成する
 - ② 農業界全体の経営力を底上げする



理事・監事

代表理事 理事長・校長 理事	元 日本放送協会 解説委員室 解説副委員長	合瀬 宏毅
代表理事 専務理事	一般社団法人アグリフューチャー・ジャパン 事務局長	大内 博和
理事	新潟食料農業大学 教授	青山 浩子
理事	エスピー食品株式会社 顧問	小形 博行
理事	農事組合法人和郷園 代表理事	木内 博一
理事	農林中央金庫 代表理事 理事長執行役員 最高経営責任者 (CEO)	北林 太郎
理事	東京農業大学 国際食料情報学部教授	渋谷 往男
監事	J A三井リース株式会社 取締役 常務執行役員	伊藤 良弘
監事	弁護士 (東京富士法律事務所)	山田 祥恵

2026年3月31日現在



理事長・校長
合瀬 宏毅

校長メッセージ

未来のイノベーターを応援します

私たちの命と健康を支える食と農業。そこには様々な課題が山積しています。高齢化や人手不足による生産力低下の一方で、増え続ける世界の人口。温暖化による天候不順は激しさを増し、環境問題への対応が強く求められています。その課題を解決していくために、データを活かした農業や次世代ファーム、代替タンパクやゲノム編集による新たな食体験といった、新しい動きも次々と始まっています。AFJ日本農業経営大学校は、食や農の世界で新たなチャレンジに挑む人たちを支援してまいります。

施設紹介



農林中央金庫品川研修センター



集合研修を実施する教室



落ち着いた雰囲気のラウンジ



晴れた日はテラスでディスカッションも

法人概要

社団名： 一般社団法人アグリフューチャー・ジャパン
所在地： 東京都港区港南2-10-13 農林中央金庫品川研修センター5階
設立： 2012年2月
会員数： 205会員 (2025年12月31日現在)
事業内容： AFJ日本農業経営大学校の運営、農業分野における調査・研究等

HP: <https://www.afj.or.jp>

アグリフューチャージャパン会員一覧

正会員

味の素株式会社	イオンアグリ創造株式会社
イノチオホールディングス株式会社	エスピー食品株式会社
カゴメアグリフレッシュ株式会社	キッコーマン食品株式会社
株式会社 極洋	株式会社 J-オイルミルズ
昭和産業株式会社	スターゼン株式会社
宝ホールディングス株式会社	株式会社 ニチレイ
日清オイリオグループ株式会社	株式会社 日清製粉グループ本社
株式会社 ニッポン	日本アルモンテ株式会社
日本ハム株式会社	ハウス食品グループ本社株式会社
株式会社 パローホールディングス	不二製油株式会社
プリマハム株式会社	丸大食品株式会社
明治ホールディングス株式会社	森永乳業株式会社
株式会社 ヤオコー	株式会社 ヤクルト本社
山崎製パン株式会社	雪印メグミルク株式会社
横浜冷凍株式会社	株式会社 ライフコーポレーション
公益社団法人 日本農業法人協会	農業者大学校同窓会
一般社団法人 全国農業協同組合中央会	全国農業協同組合連合会
全国共済農業協同組合連合会	農林中央金庫
一般社団法人 全国農業会議所	公益社団法人 大日本農会
特定非営利活動法人 全国有機農業推進協議会	霜里農場
株式会社 野菜くらぶ	農事組合法人 和郷園
一般財団法人 日本GAP協会	一般社団法人 日本食農連携機構
株式会社 農林中金総合研究所	
生活クラブ事業連合生活協同組合連合会	日本生活協同組合連合会
パルシステム生活協同組合連合会	一般社団法人 日本フードサービス協会

AFJが、あなたの挑戦と会員をつなぎます。

賛助会員

伊藤忠商事株式会社	オリックス株式会社	住友商事株式会社	井関農機株式会社	株式会社ADKマーケティング・ソリューションズ
王子ホールディングス株式会社	株式会社クボタ	ゴールドバック株式会社	清水建設株式会社	ダイキン工業株式会社
富士急行株式会社	三井不動産株式会社	三菱地所株式会社	ヤンマーアグリ株式会社	レンゴー株式会社
株式会社アインホールディングス	株式会社NTTデータ	科研製薬株式会社	兼松株式会社	住友化学株式会社
住友不動産株式会社	総合警備保障株式会社	双日株式会社	大成建設株式会社	大和製罐株式会社
東急株式会社	トヨタホーム株式会社	日鉄興和不動産株式会社	日東ベスト株式会社	日本酸素ホールディングス株式会社
日本通運株式会社	野村不動産株式会社	BIPROGY株式会社	フジパングループ本社株式会社	ホクサンホールディングス株式会社
丸紅株式会社	株式会社やまびこ	UBE株式会社		
朝日アグリア株式会社	株式会社豊田自動織機	株式会社インフォメーション・ディベロプメント	エア・ウォーター株式会社	片倉コープアグリ株式会社
協友アグリ株式会社	近鉄グループホールディングス株式会社	クミアイ化学工業株式会社	京浜急行電鉄株式会社	正栄食品工業株式会社
株式会社西武ホールディングス	積水ハウス株式会社	中越パルプ工業株式会社	中央日本土地建物株式会社	ナイス株式会社
株式会社なとり	日本甜菜製糖株式会社	日本電気株式会社	日本オラル株式会社	日本曹達株式会社
日本農業株式会社	はごろもフーズ株式会社	ヒューリック株式会社	北興化学工業株式会社	株式会社丸山製作所
三菱HCキャピタル株式会社	三菱ガス化学株式会社	三菱総研DCS株式会社	株式会社三菱総合研究所	ミヨシ油脂株式会社
SBSフレック株式会社	SBSホールディングス株式会社	NTN株式会社	三菱重工株式会社	株式会社朝日工業社
株式会社ADEKA	株式会社アミノアップ	飯野海運株式会社	石原産業株式会社	株式会社岩手朝日テレビ
塩水港精糖株式会社	株式会社王将フードサービス	株式会社カネカ	木徳神糧株式会社	協同住宅ローン株式会社
株式会社クラレ	クリナップ株式会社	月桂冠株式会社	ケンコーマヨネーズ株式会社	サンケイ化学株式会社
JA三井リース株式会社	JNC株式会社	シブヤ精機株式会社	株式会社商船三井	昭和バックス株式会社
住友林業株式会社	センコーグループホールディングス株式会社	大王製紙株式会社	高梨乳業株式会社	千葉製粉株式会社
デンカ株式会社	東京センチュリー株式会社	東京定温冷蔵株式会社	東京豊海冷蔵株式会社	東西産業貿易株式会社
東ソー株式会社	東武鉄道株式会社	鳥越製粉株式会社	西松建設株式会社	日建リース工業株式会社
株式会社日新	日本カーバイド工業株式会社	日本化薬株式会社	日本食品化工株式会社	一般社団法人日本スーパーマーケット協会
日本製紙株式会社	株式会社浜乙女	フィード・ワン株式会社	株式会社フジ	芙蓉総合リース株式会社
株式会社ベイシア	北越コーポレーション株式会社	ホクサン株式会社	北海道糖業株式会社	保土谷化学工業株式会社
株式会社マルイチ産商	丸善食品工業株式会社	株式会社ミキモト	三井住友ファイナンス&リース株式会社	三菱商事株式会社
宮坂香料株式会社	明海グループ株式会社	名糖運輸株式会社	ヤマエ久野株式会社	株式会社ヤマタネ
雪印種苗株式会社	ユニチカ株式会社	株式会社吉野家ホールディングス	ラサ工業株式会社	理研ビタミン株式会社
旭化成株式会社	伊藤忠アーバンコミュニティ株式会社	伊藤忠飼料株式会社	株式会社ABC Cooking Studio	株式会社荏原製作所
OATアグリオ株式会社	協同乳業株式会社	株式会社京成ストア	サミット株式会社	ジェイカムアグリ株式会社
信越化学工業株式会社	公益財団法人全国学校農場協会	TPR株式会社	豊田通商株式会社	豊玉香料株式会社
株式会社永谷園ホールディングス	南西糖業株式会社	日清丸紅飼料株式会社	日東富士製粉株式会社	日本酒類販売株式会社
株式会社農協観光	三井化学株式会社	株式会社ラクト・ジャパン		
わらべや日洋ホールディングス株式会社				

2025年12月31日現在